16.平和と公正をすべての人に

国際刑事裁判所（ICC）・慶應義塾大学主催 アジア太平洋学術フォーラムを開催

2025年11月27日～28日、「ICCアジア太平洋学術フォーラム（ICC Asia-Pacific Academic Forum）」を三田キャンパスにて開催しました。本フォーラムは、ICCとMoU（基本合意書）を通じてパートナーシップを締結しているアジア太平洋地域の10大学が一堂に会する初の試みです。会場では、ICCが直面している危機的状況において、国や地域を超えて国際司法の一翼を担う本枠組みの重要性が確認されたほか、ICCへの学術的理解の促進や将来の学術協力のあり方が議論されました。この開かれた学術交流を通じて、今後ICCの任務に関する対話が促進され、国際刑事司法の発展に向けた地域の関与がさらに強化されることが期待されます。



オープニングセッションの様子

シンポジウム「パブリックヘルス（公衆衛生）の現代的課題を考える」開催

2025年7月1日、三田キャンパスにて、X Dignityセンター主催シンポジウム「パブリックヘルスの現代的課題を考える」を開催し、産業界、官公庁、学術機関、民間団体など多様なセクターから90名を超える参加者が集まりました。シンポジウムでは、SNS利用が子どもの心身の健康に与える影響や国内外における規制・法的紛争の現状、地球環境と人間の健康を一体的に捉える「プラネタリーヘルス」をテーマに、研究者、行政関係者、医療・政策分野の専門家が意見を交わしました。分野を超えた対話を通じて、健康、情報環境、地球環境をめぐる課題に対し、領域横断的な連携を深める重要性を共有する機会となりました。

春季企画展「ある一家の近代と戦争―上原良春・龍男・良司とその家族」を開催

2025年6月19日～8月30日、福澤諭吉記念慶應義塾史展示館にて、2025年度春季企画展「ある一家の近代と戦争―上原良春・龍男・良司とその家族」を開催しました。本展では、慶應義塾に学び、戦争で命を落とした上原良春・龍男・良司の三兄弟の足跡を中心に、上原家に残された遺品や写真、手紙などの資料を通じて、日本の近代化と戦争について考える機会を提供しました。戦後80年を迎える中、残された資料を通じて戦争の記憶を次世代へ継承することを目指した企画です。また、2025年7月12日には特別座談会「上原家、80年後の証言」を開催しました。上原家のご家族や関係者を迎え、三兄弟と共に過ごした日々や、戦争によって一変した家族の姿、平和への思いが語られました。企画展と座談会を通じて、来場者が戦争の記憶と向き合い、平和の大切さを改めて考える貴重な機会となりました。



熱心に鑑賞する来場者

「慶應義塾と戦争―モノから人へ―」大阪特別企画展を開催

2025年7月10日～8月31日、慶應大阪シティキャンパスにて、大阪特別企画展Ⅲ「慶應義塾と戦争―モノから人へ―」を開催しました。戦後80年を迎え、戦争を実体験として語ることのできる人が少なくなる中、慶應義塾福澤研究センターでは、2013年より「慶應義塾と戦争」アーカイブ・プロジェクトを発足し、戦争期の慶應義塾に関する資料の収集や所在把握を継続して行っています。本企画展では、昨年三田キャンパスで開催された企画展のダイジェスト版に加え、大阪会場のみで公開される新資料も展示しました。残された資料を通じて、戦争の記憶を次世代へどのように受け継ぎ、過去から何を学ぶことができるのかを考える機会となりました。



戦争の記憶を伝える当時の資料